

エコミュージアム活動推進事業

自治体情報 茨城県常陸太田市
人口 / 58,474人 標準財政規模 / 16,816百万円

担当課 教育委員会文化課
電話番号 代表 0294-72-3111
実施主体 常陸太田市
関連ホームページ <http://edu.city.hitachiota.ibaraki.jp/eco/index.html>
事業期間 平成19年度から
関係施策分類 ①、③

予算関連データ

総事業費：3,865千円 (H22)

名称	所管	金額(千円)
一般財源	-	3,865

施策のポイント

当市にある恵まれた地域資源（自然、歴史、景観、産業、文化、住民等々）を市民と行政が協働で発掘、育成、活用を図ることにより、地域の活性化、地域資源を活かした人づくり・生産経済活動・交流活動など、従来にはない地域独自の新しいまちづくりが創出されている。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

合併前の旧常陸太田市において、平成11年から「地域まるごと博物館」というエコミュージアムの考え方を採用し、モデルコース・モデルサテライトマップづくりやサインシステムの整備計画を進めたが、地域資源の活用・整備までには至らない状況であったため、合併後の新常陸太田市となって策定した第5次総合計画（H19～28）において、「地域資源を磨き活用するまちづくり（エコミュージアム活動によるまちづくり）」を当市のまちづくりの柱として位置づけ、市民と行政の協働による地域資源の発掘、育成、有効活用の地域づくりを進めている。

2. 取組の具体的内容

町会や集落を対象に「見つけようふるさと、学ぼうふるさと、創ろうふるさと」をテーマとした「わがまち地元学事業」を開催し、市が地域づくりコーディネーターとして参画した地域住民によるワークショップ形式により、下記の活動を実施。

- (1) 地域資源の探索活動（お宝マップの作成）
- (2) 発見された地域資源の活用方法や地域の将来像を検討しまちづくり計画を作成
- (3) 町内の全ての住民に計画書を配布し計画発表会を開催

まちづくり計画に基づき、地域資源の整備、地域まつりの再興、耕作放棄地の活用、体験交流事業の開催等、地域それぞれの特色ある資源を活用したまちづくりの実践。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

【平成28年度目標値】わがまち地元学実施地域数（参加人数）：19地域（4,200人）

4. 現在までの実績・成果

平成22年度現在、8町会1集落でわがまち地元学事業を実施し、地域独自のまちづくり計画に基づき住民が主体となって地域資源の整備、地域資源を活用したイベントの開催、地域管理による耕作放棄地への作付け、地域と旅行者の連携による自然体験交流事業の開催など様々な取組みが行われている。また、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の参加により、郷土学習・多世代交流等の機会として地域コミュニティの活性化にも効果があがっている。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

地域住民が主体となるわがまち地元学事業の主旨により、地域からの要請による「手上げ方式」を基本としているため、町会等の地域活動への意識差などにより、持続的な展開が難しい側面がある。そのため、先導地域の事例を効果的にPRするとともに、未実施地域の代表者に対する実践地域の見学機会を設けるなど、エコミュージアム活動によるまちづくりの意識の高揚に努めている。

6. 今後の課題と展開

少子高齢化や核家族化、人口減少の進行により地域活動の低下が見込まれることから、エコミュージアム活動によるまちづくりの意識の高揚に努め、わがまち地元学事業実施地域のさらなる拡大を図るとともに、実施地域の広域的な連携を強化し、自然・観光等の地域資源の環境整備とネットワーク化を進め、交流人口の拡大や産業の活性化を推進することが必要である。